

第6学年社会科学学習指導案

授業者 6年1組 木本 武志

6年2組 田中 裕子

1 小単元名 「長く続いた戦争と人々の暮らし～その時 板橋では～」(全9時間)

2 小単元の目標

日中戦争や太平洋戦争、そのころの国民生活などを地図資料や統計資料、地域の方への聞き取りなどを活用しながら調べることを通して、強化された戦時体制や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことが分かり、自分たちが戦争をどのように伝えていくか考え、表現することができるようにする。

3 観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程のどこで
社会的事象への関心・意欲・態度	・70年前に戦争について関心をもち、調べたいことを見いだしている。	つかむ
社会的な思考・判断・表現	・日中戦争、太平洋戦争、その頃の国民生活などについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ・戦時中の国民の生活について調べ、さらに聞いてみたいことについてカードにまとめることができる。 ・戦時中の国民の生活について調べたことを自分の言葉で表現している。 ・これまでの学習を想起し、戦争と国民生活とのかかわりをなるべく詳しく書くことができる。 ・いろいろな人の立場になって終戦を迎えたときの気持ちや戦後の日本について考え表現している。	つかむ 調べる 調べる まとめる ふかめる
観察・資料活用の技能	・戦争が始まった背景等について年表や地図などを活用し、進んで調べようとしている。 ・1945年の出来事を資料を使って進んで調べ、理解することができる。	調べる 調べる
社会的事象についての知識・理解	・年表や表等を活用し太平洋戦争など広がっていた戦争について進んで調べようとしている。	調べる

※学習過程の「調べる・考える」は「調べる」と略して表示

4 小単元について

(1) 学習指導要領における位置付け

本小単元は、学習指導要領の内容(1)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に移籍や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を 考えようとする」とともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界対戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などに

について調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。」を受けて設定した。

(2) 教材について

本年は戦後70年を迎え、夏休み中には多くの戦争に関する番組が放映された。その番組の多くは、70年前に終わった戦争の悲惨さが現代では忘れられてきており、後世に語り継がなければならないという構成となっていた。しかし、戦争を知らない世代である子どもたちは、戦争があったということは分かっている、その現状や身近にその悲惨さがあったことは実感しにくい。そこで、自分たちが生活をしている地域にある戦争の爪痕や、地域に住むその時代を生きた人の話を教材として取り上げる。

(3) 児童の実態について

子どもたちは、地域に住む高齢者と、これまでの教育活動において交流を重ねている。今回はその高齢者から戦争についての話を聞くことによって、テレビの向こう側の話であった戦争の悲惨さについて、自分たちの生活の身近にあることに気付かせられると考えた。

5 研究主題との関連

(1) 共に考え表現しながら社会認識を深め、参画意識を培う教材の開発

○戦争を身近に感じさせるための教材

東京都板橋区大山金井町には空襲犠牲者供養の地蔵がある。第二次世界大戦中の昭和二十年（一九四一）四月十三日夜、板橋から志村の地域にかけてアメリカ軍による空襲があり、区内最大の罹災者約四万五千人を出し、板橋駅、区役所、養育院など板橋区の中核が焼け野原となった。この空襲で、当地の防空壕に避難していた、一人の乳児を含む九人が、爆弾の直撃を受け犠牲になったといわれている。戦後、当地を購入し、公衆浴場を開業した小川忠雄氏が、先の空襲による被害を知り、供養のために空襲犠牲者供養の地蔵を建てた。八面の胴部分に一体ずつの地蔵が刻まれ、そのうちの一体が子どもを抱いている。昭和四十九年（一九七四）には、覆屋（おおいや）も作られ、現在ではまちの方々によって大切にされている。この地蔵は、板橋区における空襲の事実を伝え、後世に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える史跡として、平成七年度、板橋区の記念物に登録された。このような地蔵が自分たちの生活している地域にあることは戦争を身近に感じる教材になると考えた。

○戦争の被害の大きさを実感させる教材

戦争が一度起きると大きな被害が生じる。第二次世界大戦では、多くの民間人を巻き込み戦争が進み、兵士や民間人に関わらず、多くの犠牲者が出た。それまで当たり前であった生活が一度の空襲で失われること、一瞬で命まで奪われ、現在までその被害が残っている原子爆弾、その被害の大きさや悲惨さを考えさせるために、当時の写真や新聞記事などを活用する。

○戦時中の人々の思いを考えさせる教材

前線に立つ兵士、残された家族、その時代を生きた子どもたちなど、その当時の人々の思いが分かるように、その当時の手記や作文などから、その思いを読み取ったり、慰問袋から、用意する人や受け取る人の気持ちを考えられるようにした。

(2) 共に考え表現しながら社会認識を深め、参画意識を培う学習過程の工夫

前小単元の「世界に歩み出した日本」の学習を通して、当時の為政者、文化人、その時代を生きた人々の立場から考える学習をしている。この小単元では、前小単元の学習の視点を生かして、日華事変、我が国にかかわる第二次世界対戦がどのように拡大していき終戦を迎えたのか、その時代を生きた

人々はどのような思いで生きていたのかを調べさせていく。戦後70年という今だからこそ、関心をもって学習が進められると考える。

(3) 共に考え表現しながら社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫

①指導法の工夫

本学年の児童の実態として、分かっている子どもを含めた限られた子どもに発言が偏る傾向にある。発言をしない子どもの振り返りを読むと、決して考えていないわけではなく、その授業を深めるような記述が見られることがしばしばある。そこで、全員が安心して発言をし、多様な意見が出ることで、授業を深めていくために、発問や話題はスモールステップ化して、難易度の高くないところから始め、社会的経験や理解度の差などを埋めていくようにする。

(例)

資料を見てすぐ分かる発問「これはなんですか。」「見てみるとどんなことに気づきますか。」

↓

調べると分かる発問「どのような違いがありますか。」「疑問に思うことはどんなことですか。」

↓

考えないと答えることができない発問「なぜこうなったのでしょうか。」

また、その時間が小単元のどの時間となるのか、前時までどのような学習を重ねて来たのかが分かるように、毎時間の板書を写真にとり、提示資料とともに拡大して教室に掲示していくようにする。

②学習活動の工夫

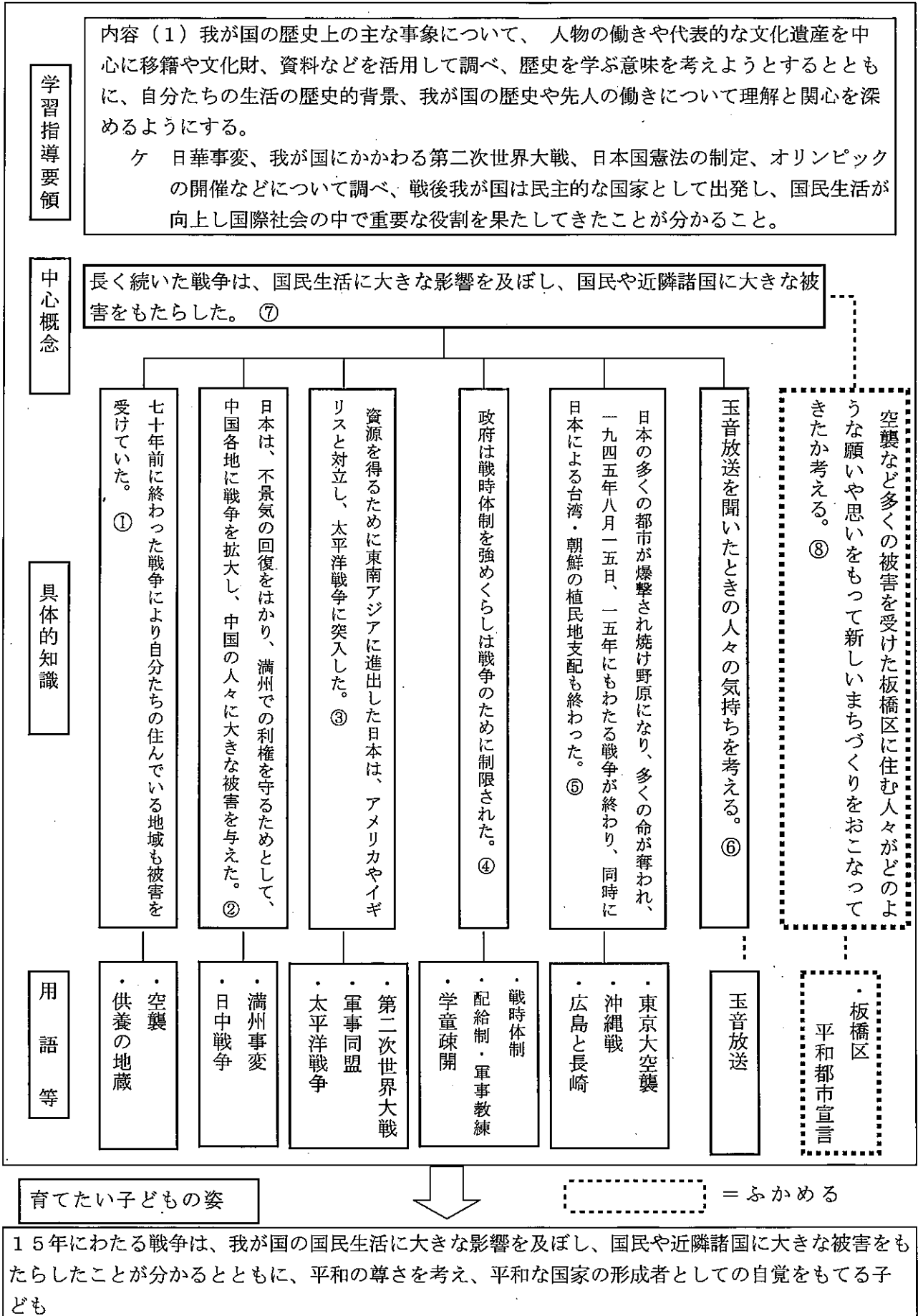
様々な立場から戦争について考えられるように、様々な立場の人々の話を聞く活動を取り入れる。また、資料の活用の仕方として、自分の思考が整理できるように、資料をノートに貼る際には、「気付いたこと」「見つけたこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」などを書き加える。そして、今日の授業を次の時間の授業につなげる工夫としてECT（エンディングクロストーク）とSCT（スターティングクロストーク）を行うことにする。そうすることで、問いの連続性が生まれてくるものと考えた。ECT（エンディングクロストーク）では、初めて知ったこと、もっと調べたいと思ったこと、本時の学習のめあてに対する自分のまとめ等を書かせ発表し合うことで、問いの連続性を意識していき、SCT（スターティングクロストーク）では、授業の最初に、前時の課題に対する自分の意見や前時の最後に出された課題を全員で確認する。

(4) 共に考え表現しながら社会認識を深め、参画意識を培う評価の工夫

○授業の最後にたどりつかせたい学習内容の明確化と発問の精選

その時間の最後にどのようなことを理解し考えればよいのか、その言葉を具体的にする。そのねらいを達成するためには、どのような発問をすればよいのかを毎時間、吟味し指導案に明記していく。また、そのねらいが達成できているか、その時間ごとの評価規準を明確にしていく。その手だてとして、自分語タイムを設定することで、常に把握していくようにする。

◎知識の構造と育てたい子どもの姿



過程	ねらい (数字は時数)	児童の活動 (○主な学習活動 ・児童の反応)	教師の指導・支援 (○指導・留意点 □教材 ◇評価)
つかむ	①イメージマップを作ったり、地域に残る戦争に関する資料を見たりして、学習問題を作り学習計画を立てる。	<p>○「戦争」という言葉からイメージマップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が被害に遭う。 ・今年(1945年)は戦後70年である。 ・原爆が広島と長崎に落とされた。 <p>○板橋区でも戦争の被害をうけ、犠牲者も出たことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む板橋でも空襲があり、犠牲者が出ている。 ・今の町並みとは違って被害がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">70年前に終わった戦争とはどんな戦争だったのだろうか？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">学習計画を立てよう</div> <p>○70年前に終わった戦争について調べたいことをまとめ、学習計画を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ戦争になったのか ・どこの国と戦ったのか ・どんな生活をしていたのか ・人々はどんな気持ちだったのか 	<p>○「戦争」についてイメージをもたせる。</p> <p>□空襲犠牲者供養の地蔵写真 □板橋区の戦前～戦後の写真</p> <p>○自分たちの住む板橋でも戦争の被害があったことから戦争を心理的に身近に考えさせるようにする。</p> <p>◇70年前の戦争について関心をもち、調べたいことを見いだしている。 【関心・意欲・表現】 (発言・ノート)</p>
調べ・考える	②日中戦争の始まりとその後の経過を調べ、日本と中国双方の国民生活から日中戦争を考えることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">戦争が始まったのはなぜだろう</div> <p>○戦争が始まった理由と満州事変・日中戦争を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国に勢力を伸ばし、不景気を回復させたかった。 ・満州での日本の権利や利益を守りたい。 ・資源を確保しようとした。 <p>○日中の国民の生活について考えて書く。</p> <p>(日本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源を確保することが必要だ ・不景気を回復しなければならない ・満州の権利を守りたい。 ・戦争は避けたい <p>(中国)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな国に土地を奪われている ・自分たちの生活を守りたい 	<p>□日本の勢力範囲地図 □年表 □日本と中国の国旗</p> <p>◇戦争が始まった背景等について年表や地図などを活用し、進んで調べようとしている。【観察・資料活用の技能】(発言・ノート)</p>

<p>③戦争が拡大していった理由や世界の様子がわかるとともに、戦場になった場所に住む人々の思いを考えることができる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争はどのように広がっていったのだろうか</p> <p>○どのようにして太平洋戦争は広がったのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア一帯を日本が占領している。 ・オーストラリアにまで攻めている。 ・日本は資源が少ないから、それを確保しようとして攻めているんだ。 <p>○太平洋戦争はどのような戦争だったのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカでは国力に差があった。 ・最初は勢いがあったけど、すぐに日本が劣勢になった。 ・国民は政府の言葉を信じて戦争に協力していった。 <p>○中国や朝鮮の人々の中には日本の戦争に協力させられ人もいたことをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動教室で行った日光にも、追悼の碑があるなんて驚いた。 	<p><input type="checkbox"/>日本が勢力を拡大した地図</p> <p>○どうして、ここまで勢力を拡大しなければならなかったのか、前時の学習を生かしてその理由を考えられるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>年表 <input type="checkbox"/>板橋区等の写真</p> <p><input type="checkbox"/>日米の生産力の差のグラフ</p> <p>◇年表や表等を活用し太平洋戦争など広がっていた戦争について進んで調べようとしている。【知識・理解】(発言・ノート)</p> <p><input type="checkbox"/>足尾銅山強制連行追悼碑写真</p>
<p>④戦争中の国民生活を調べ、戦争が国民生活に及ぼす影響を考える。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争中の国民はどのような生活をしていただろう</p> <p>○戦時中のポスターを見て、戦争中の人々の生活を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我慢をして生活をしていただろうではないか。 ・ものが足りなかったのではないか。 ・必要最小限のものしかなかった。 <p>○戦争中の人々の生活について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配給制で好きなものを自分で買えない。 ・板橋区でも学童疎開があり、学童疎開では、空襲を避けるために家族から離れて生活しなければならなかった。 ・軍事教練では、学校の授業も軍隊形式になっていった。 <p>○慰問袋を見て、送る側、もらう側、両方の気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無事に帰ってきて欲しいという願いがこめられていた。 ・家族や日本を守ろうと考えたのでは。 ・生きて家族に帰りたい。 <p>○「戦争によって人々のくらしは・・・」の</p>	<p><input type="checkbox"/>戦時中のポスター</p> <p><input type="checkbox"/>板橋の学童疎開等の写真</p> <p><input type="checkbox"/>野球用語の表</p> <p><input type="checkbox"/>昭和18年の年表</p> <p>○生活の中にも戦争の色が濃くなってきていることをつかませるために、自分の生活と関連づけて調べさせるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>慰問袋</p> <p>◇戦時中の国民の生活について調べ、まとめることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】(カード・発言)</p> <p>◇戦時中の国民の生活につ</p>

	リード文でその当時の人々の様子をまとめる。	いて調べたことを自分の言葉で表現している。 【思考・判断・表現】 (発言・ノート)
⑤ 沖縄戦・東京大空襲・原爆投下などについて調べ、日本が戦争を終わらせるきっかけになったことについて考える。	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争はどのようにして終わったのだろう</p> <input type="checkbox"/> 東京大空襲・沖縄戦・広島と長崎に落とされた原爆等について調べる。 <input type="checkbox"/> 東京大空襲でも沖縄戦でも原爆でも、市民に多くの犠牲者が出ている。 <input type="checkbox"/> 板橋区でも大勢の方が被害にあっている。 <input type="checkbox"/> 原爆では何年も後遺症に苦しむ人がいる。 <input type="checkbox"/> 沖縄戦では、島が戦場となったため兵士だけでなく島民も亡くなった。	<input type="checkbox"/> 空襲を受けた都市の地図(板橋区他) <input type="checkbox"/> 東京大空襲他写真 <input type="checkbox"/> 板橋区の被害がわかる表 <input type="checkbox"/> アメリカ人日本人の原爆投下に対する思いの違いを書いてある新聞記事 <input checked="" type="checkbox"/> 1945年の出来事を資料を使って進んで調べ、理解することができる。 【観察・資料活用の技能】 (発言・ノート)
⑥ 終戦を迎えたときの人々の気持ちを考え、戦後どのような国作りを行ったらよいか考える。 〈本時①〉 6年2組	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争が終わった日、人々はどんな気持ちだったのだろう。</p> <input type="checkbox"/> 戦地で戦っていた大人、子どものそれぞれの立場で考える。 <input type="checkbox"/> それぞれの人たちがこれからどんな日本になって欲しいと願ったか考える。 ・ やっと終わった。 ・ 負けて悔しい。 ・ これからどうやって生きていけば良いのだろう。 <input type="checkbox"/> 戦争体験者の思いを聞いて、考えを深める。	<input type="checkbox"/> 玉音放送 <input type="checkbox"/> 玉音放送を聞いている人々の写真 <input checked="" type="checkbox"/> いろいろな人の立場になって終戦を迎えたときの気持ちや戦後の日本について考え表現している。 【思考・判断・表現】 (発言・ノート) <input type="checkbox"/> 戦争体験者
まとめる ⑦ 学習問題について自分の考えをまとめる。	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争と国民生活とのかかわりをまとめよう。</p> 「70年前に終わった戦争を調べて分かったこと」という題名で、これまでの学習をまとめる。	<input checked="" type="checkbox"/> これまでの学習を想起し、戦争と国民生活とのかかわりをなるべく詳しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 (ノート)
ふかめ ⑧ 板橋に住む人々は戦後どのような願いをもって	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争が終わって人々はどのような国にしていきたいと願ったのだろう。</p> <input type="checkbox"/> 子どもや大人の立場で考える。	<input type="checkbox"/> 戦争中の板橋区の写真 <input type="checkbox"/> 現在の板橋区の写真

る	復興を進めて行ったのか考える。 〈本時②〉 6年1組	<ul style="list-style-type: none"> ・家族みんなと一緒に暮らせるまち。 ・どの子ども学校に通えるまち。 ・豊かな板橋区になりたい。 <p>○自分ならどの願いを優先するのかを考える。</p> <p>○その願いを叶えるためにはどのようにすればよいか考える。</p>	<p>○これまでの学習を生かし根拠を明確にして考えさせる。</p> <p>◇戦後の人々の願いを根拠を明確にして考え表現することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発言・ノート)</p>
---	----------------------------------	--	---

7 本時の指導① (全8時間中の6時間目)

ふかめる

6年2組 田中 裕子

(1) ねらい

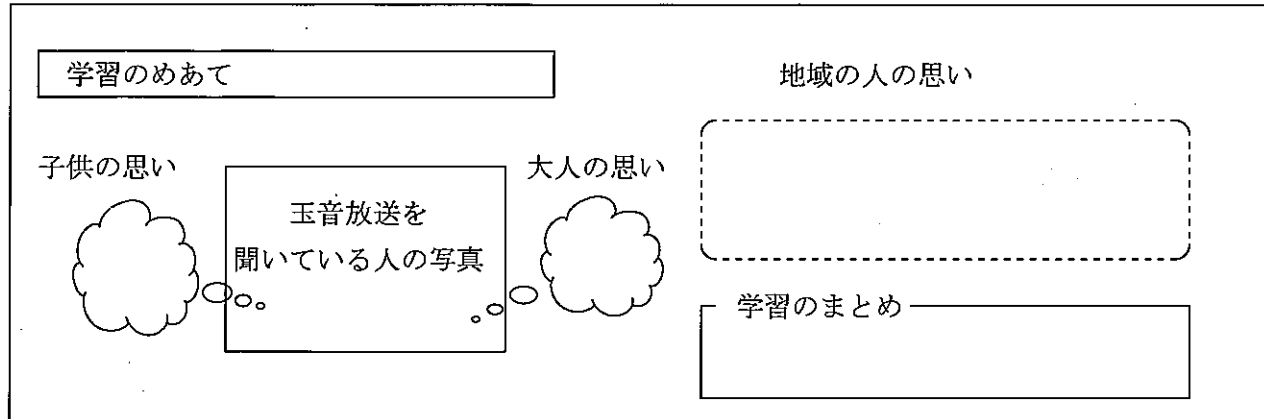
終戦を迎えたときの人々の気持ちを考え、戦後どのような国作りを行ったらよいか考える。

(2) 展開

過程	児童の活動 (主な学習活動 ・ 児童の反応、内容)	教師の指導・支援 (○指導・留意点 ◎中心発問 □教材 ◇評価)
つ か む	①70年前に終わった戦争がどのような戦争だったか振り返る。 ②玉音放送を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">C-2 SCT (子どもの振り返り)</div> <input type="checkbox"/> 玉音放送 <input type="checkbox"/> 玉音放送を聞いている人たちの写真
	戦争が終わった日、人々はどんな気持ちだったのだろう。	
調 べ る 考 え る	◎小学生・大人のいずれかの気持ちを考える。 (小学生) ・とにかくおなかいっぱいごはんを食べたい。 ・これで安心して勉強ができる。 ・もう疎開しなくていい。 ・もう爆弾で家が焼かれることもない。 (大人) ・占領されて不安だ。 ・お父さんやお兄さんは無事戻ってきてほしい。 ・これからは女性も政治に加わりたい。 ・戦争に負けてくやしい。 ・私たちの仕事がなくなってしまう。 ・戦地に行かされることはないけれど仕事もなくて不安だ。 ○同じ所に名前を貼った者同士集まり、情報交換をする。	○根拠を明確にして考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">D 中心発問と反応予想</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ◎玉音放送を聞いて戦争が終わったことを知った人々は、どんな気持ちだったのでしょうか。 C戦争に負けて悔しい。あんなに頑張ったのに。戦争が終わって良かった。これで安心して暮らせる。戦争に負けて、これからどうなるのだろう。 Sそれぞれの立場の人がどのように戦争中をすごしていましたか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">C-2 情報交換タイム</div> ○友達の考えをよく聞いて、付け足したり変えたりして良いことを確認しておく。

ま と め る	④どのような方法で再建していくか考え合う。 ・争いは、話し合いで解決するようにする。 ・多くの国と意見を合わせて、問題を解決する。 ・多様な意見を自由に言える国にする。 ・国民の代表が政治をできる国にする。	◇いろいろな人の立場になって終戦を迎えたときの気持ちや戦後の日本について考え表現している。【思考・判断・表現】 (発言・ノート) ○どのようにしてそれを実現していくか考えさせる。
------------------	---	---

(3) 板書計画



本時の指導② (全8時間中の8時間目)

ふかめる

6年1組 木本 武志

(1) ねらい

板橋に住む人々は戦後どのような願いをもって復興がどのように進んで行ったのか考える。

(2) 展開

	児童の活動 (○主な学習活動 ・ 児童の反応、内容)	教師の指導・支援 (○指導・留意点 ◎中心発問 □教材 ◇評価)
つ か む	○玉音放送を聞いたときの人々の気持ちを振り返る。 ①板橋区の戦中と戦後の写真を見て変わったことを発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">C-2 S C T (子どもの振り返り)</div> <input type="checkbox"/> 板橋区の空襲被害を表す表 <input type="checkbox"/> 戦中と現在の板橋区の写真 ○70年の間の変化に気付かせる。
	戦争が終わって人々はどのような国にしたいと願ったのだろう	
調 べ る 考 え る	②小学生・大人のどちらかの気持ちになって考える。 (小学生) ・板橋第十小を早くたててほしい ・安心して学べる学校が欲しい ・たくさんご飯が食べたい (大人) ・板橋区の飛行場の跡地を公園にしてほしい ・道路や交通が便利なまちにしたい ・家族がまた一緒にくらしたい	○「わたしたちの板十」「わたしたちの板橋区」教科書・資料集・ノートなどを手がかりに考えさせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">D 中心発問と反応予想</div> <input type="checkbox"/> 板十小とその周りの年表 ◎戦後板橋区に住む人々はどのような願いをもって今の板橋区を作ってきたのでしょうか。 C・家族みんなが一緒に暮らせるまち。 ・どの子ども学校に通えるまち。

<p>・板橋区がもっと豊かになるといい</p> <p>○情報を交換する</p> <p>③自分ならどの願いを優先するのかを考える。 ④その願いを叶えるためにはどのようなことをすればよいか考える。</p>	<p>・緑や道路の整備されたまち ・交通が便利なまち</p> <p>Sそれぞれの立場の人がどのように戦争中を過ごし、どのような気持ちで終戦を迎えたのかな。</p> <p>○第4時（生活）第6時（終戦時の思い）第7時（戦争のまとめ）を振り返りながら考えさせる。</p> <p>◇戦後の人々の願いを根拠を明確にして考え表現することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】（発言・ノート）</p> <table border="1" data-bbox="877 638 1244 689"> <tr> <td>C-2</td> <td>情報交換タイム</td> </tr> </table>	C-2	情報交換タイム
C-2	情報交換タイム		
<p>ま と め る</p> <p>④約30年前に板橋区を始め多くのまちが平和都市宣言が行われたことを知り、これからの国作りについて関心をもつ。</p>	<p>□板橋区平和都市宣言</p> <p>○戦後の新しい国作りに対する関心をもたせる。</p>		

(3) 板書計画

